

未臨界核実験の強行に強く抗議する

アメリカ合衆国大統領

バラク・フセイン・オバマ 殿

2010年10月14日

原水爆禁止埼玉県協議会

米エネルギー省は、9月15日に未臨界核実験を実施したことを発表した。実験は2006年8月以来で、「核のない世界」を提唱したオバマ政権では初めてのことで、絶対に許せない。

今年5月のNPT(核兵器不拡散条約)再検討会議の最終文書は、「核兵器のない世界の平和と安全を達成する」ことを目標にするとともに、核兵器のない世界をつくり、維持する枠組みをつくるための努力をすべての国の政府に課した。今回の未臨界核実験は、こうした世界の大きな流れへの逆行である。

北朝鮮やイランの核開発疑惑を強くとがめながら、自らは核兵器の維持のための実験を繰り返すなど、許されない。またそれは、北朝鮮やイラクへの自らの発言力を弱め、核開発を誘発するものでしかない。

アメリカ大使館のホームページは、ルース大使が駐日大使として初めて広島平和記念式典に出席したことや同大使が長崎市を訪問し、原爆資料館を見学したこと、平和公園で献花したことなどを報じている。未臨界核実験の強行は、オバマ大統領のもとで、貴国の核政策に変化がみられると感じていた日本国民をはじめ世界の平和愛好者の期待を大きく損ねるものである。

これからも2度の実験を実施するとの報道もあるが、それらをきっぱりと止め今後も実施しないよう強く求める。

貴国に求められるものは、核兵器を使ったことのある唯一の核保有国としての道義的責任からも、核兵器禁止・廃絶条約の交渉開始・締結へのイニシアティブを発揮することである。

以上